



第 38 号

令和 6 (2024) 年 3 月 29 日発行

会 員 募 集 中

年会費 3,000 円

10月以降入会 1,500 円

歴史にみる県民性、岡山と広島

－ 広島にはバイタリティが、岡山は文化の香りがする －

会長 楠 敏明

1. はじめに

令和 5 年 10 月に広島にある「ひろしま岡山県人会」が発足 10 年目を迎えるので、「6 月に行う記念行事に歴史の講演をしてほしい」との依頼が岡山歴史研究会にあった。それを受けて、「歴史に見る県民性、岡山と広島」と題する以下の内容の講演を行った。

私は倉敷で育ち、昭和 41 年広島大学に入学した。卒業の 10 年後、広島営業所長として広島へ赴任し、6 年間滞在した。私にとって広島は馴染みの街になった。その時、岡山と広島には県民性に違いがあることを感じた。岡山へ帰り、岡山歴史研究会で歴史を学ぶ間に、隣の県ながら県民性が異なるのは歴史に依る処が大きいと感じた。

広島は昭和 20 年に原爆の被害を受け焼け野が原になった。その後、県民の努力で、70 年後には 100 万都市になった。一方の岡山は 2 千年の歴史がある吉備国である。

私が広島大学で学んでいた頃、時折、「岡山と広島は何が違うか」と聞かれた。その時、「広島にはバイタリティが、岡山は文化の香りがする」と答えた。以来半世紀、歴史を学ぶにつけ、その意を強くした。

2. 文化とは

文化を、英語ではカルチャーという。カルチャーの本来の意味は「耕す」という意味である。農業のことをアグリカルチャーという。耕すには時間がかかる。全国を旅してみて、耕されている感じる土地柄は奈良、京都、そして吉備の国、岡山くらいである。吉備国と奈良には約 2 千年、京都には 1200 年の歴史がある。

3. 広島の歴史

広島にも歴史がある。三次には 5 ～ 6 世紀の古墳群があり、三次風土記の丘に特殊器台、はにわ等の文化財を陳列してある。三次は備後の国。いわば吉備の国である。

広島が歴史上に大きく現れるのは、平安時代後期、平清盛が国司として安芸の国へ着任し、厳島神社を造営し、海上権を握ってからである。そして、戦国時代、片田舎に生まれた毛利元就が戦いを繰り返して、中国地方の覇者になった。広島のバイタリティの代表が毛利元就である。その子、毛利輝元が太田川の三角州に築城したのは千五百年代の後半、約 400 年前である。つまり、広島の街の歴史はわずか 400 年しかない。東京は太田道灌が 1400 年代後半に江戸城を築城、それでも 500 年の歴史しかない。

4. 私の知る広島

私が広島大学で学んだ昭和 40 年代は原爆後遺症が数多く残っていた。しかし、現在は原爆ドームを遺し、新しいきれいな、歴史を感じさせない街になった。

旅をして、歴史を感じさせない街ほど味気ないことはない。私は国際協力事業団の仕事で何度も中国へ行ったが、どの都市も歴史を感じさせる。それが 4 千年の歴史のある中国であると感じた。

広島の平和大通りに接して白神神社がある。かつては海と陸の境界線と言われた処である。その隣に 20 数階建てのホテルがある。人が神様を見下ろす状況である。これは県外の人々が金儲けのために建てたものかもしれないが、岡山県人の私には考えられない行為である。

また、新幹線で広島市内に入ると目につくのが双

葉山を切りとった墓地。街の景観を考えない行為に映る。これは広島のパイタリティか、生きがための行為か、文化の程度と見るか、分かれる处である。

5. 広島のパ和大通りと岡山の桃太郎大通りの違い

原爆投下直後、時の広島市長が都市計画で作ったのがパ和大通りである。焼け野が原に作ったので真っ直ぐである。ところが、岡山の桃太郎通りは岡山駅から少しずつ曲がって城下まで伸びている。400 年をかけ、談合に談合を重ねてできたのが桃太郎大通りである。自由律俳人、種田山頭火に「まっすぐな道は寂しい」という句がある。パ和大通りは焼け野が原に作ったので真っ直ぐ。歴史のない野に作られた札幌大通りも真っ直ぐである。対して、岡山の桃太郎大通りは人の営みや歴史を感じさせられる大通りである。

ある時、元広島大学長、頼実先生に聴いたことがある。「岡山は文化的なことにお金を使うが、広島は必ずしもそうでない。これは原爆を落とされたせいですか」と。すると「戦前から岡山は文化的なことにお金を使い、広島はそうではなかった」とのこと。これが培われてきた県民性の違い、歴史の違いと言えるのではないか。

6. 県民性の根底

県民性の根底に貧しさがある。江戸時代以前の主な産業は農業。明治以降も同様である。農業には平らな土地が必要である。広島にはそれが少ない。そのため、山の傾斜地にみかんを栽培してきた。岡山は平地が多く、かつ浅瀬の海岸がある。これを干拓し、農地を拡大してきた干拓の歴史がある。また、裏作にい草の栽培してきた経緯もある。さらに、平地で栽培される桃やブドウを栽培して果物王国になった。広島県人に言わせると、「岡山には広い平野があり、うらやましい」と。

明治になり、岡山からも広島からも移住、移民が行われた。戦後、日本では、国策として、昭和 30 年代まで南米への移民を奨励した。北海道にできた日本ハムの新しい野球場は北広島市にある。広島から移住した人の多い街である。ハワイへの移民の数が一番多いのも広島県人である。これもパイタリティとみるべきか？

私は、県庁所在地の駅前に立つと、人を圧倒する高いビルがあるか、ないかを観察する。現在、広島駅前には工事中、人を圧倒するビルが立ちつつある。

駅前の景観に配慮せず、人が主人公ではなく、ビルが主人公の街になりつつある。京都では、京都タワーを建てる際、大きな問題になった。歴史のある街ゆえである。

7. 広島パ和公園

広島のパ和公園の設計は旧制広島高校出身の丹下健三先生。パ和は縦に伸びるのではなく、横に広がるものとの哲学のもとに、パ和公園内にあるものは 2 階までとした。パ和公園のすぐそば、原爆ドームのそばに金儲けの象徴の商工会議所があるが、被爆者への哀悼の気持ちがあるなら離れた場所に立てるべきと考えるのだが。金より大切なもの、それは人の命であり、パ和である。

広島の街は、太田川の三角州にできた街。土地がないので上へ延びた。これも広島のパイタリティか。岡山に進出したイオンモールは、高さを合わせて開業した。岡山県人はそれを受け入れ、利用している。

8. 熊本と東京

九州新幹線ができて熊本へ行った。水前寺公園の周りにビルが多数建っていて、がっかりした。岡山の後樂園を見て、山を借景に、喧騒を離れて自然に親しみ、憩う処が公園と考えていたからである。熊本は加藤清正が築城し、地名を熊本とし、以来約 400 年の歴史しかない。

東京も 500 年足らずの歴史しかないが、江戸幕府がおかれ、明治以降の 150 年は日本の首都である。色々な公園、施設があちこちにあり、歴史を感じる場所が多い。ただ、東京ビッグサイトの逆三角形のビル、奇を衒うビルは東京からできること。岡山ではできない。

9. 歴史、文化とは

新幹線が博多まで伸びて、約 40 年後、博多駅の大改装が行われた。通路にあった土産物店や観光案内店を撤去し、海側から山側へ通じる通路に一切の店舗を無くし、見通しが可能になり洗練された駅になった。歴史の積み重ね、文化的になることは多くの物を置くことではない。いかに洗練されたものにするのが文化である。

博多は歴史のある港町である。福岡市、京都市は建造物の高さの制限条例を施行している。それに反し、広島や大阪にはない。岡山にもないが、風潮はある。

広島は、人、物を集め、リトル東京をめざしている。博多駅で言えば改修せず、そのまま延長している状態。歴史や文化などはない。

岡山県は、岡山市と倉敷市を併せて、約 100 万人強。歴史や景観等に配慮した街作り。歴史、文化が感じられる街作りを目指している。

10. 岡山の県民性

岡山には、江戸の幕末、寺子屋の数は長崎、山口に次いで 3 番目に多く、1,000 カ所以上あった。生活に余裕があった証かもしれない。

戦後、岡山県人で、その分野の第 1 人者になった人が 4 人いる。政界では橋本龍太郎総理大臣、実業界では経団連会長の土光敏夫さん、労働界では総評議長の太田薫さん、将棋界では大山康晴名人。

子供の頃、めざしを食べて一生懸命働く老人達が近くに多くいた。土光さんのような学識、見識はないかもしれないが。その土光さんは中曽根内閣で、臨時行政調査会の会長を務めた。それにより、国鉄が民営化され、三公社、五現業の改革が実現できた。

めざしを食べる土光さん、ミスター合理化の土光さんが国民を納得させた。中曽根総理が土光さんを臨調の会長に据えたのは国民を納得させるだけの人望があった故。岡山県人の代表であり、誇りである。岡山の県民性を具現化した代表者である。

11. 食文化

食文化も歴史が大いに関係する。私は、転勤族で、東京、名古屋、富山、大阪、広島で生活した。

食文化は歴史とともに人口が大きく関係し、又個人の好みも影響する。が、遠慮なく言えば、一番おいしいと感じたのは東京。一番まずいと感じたのが広島。県外から広島への赴任者からも同様の意見が多い。

広島の名物はお好み焼き。岡山では寿司、バラ寿司である。昭和 30 年代、岡山でも俸禄で小麦粉を練って焼いたものが子供のおやつだった。その頃、お好み焼きはキャベツを加えて焼き、10 円だった。

テレビが放映され始めた頃で、メルボルンオリンピックに興奮した貧しい時代を象徴する食べ物が、お好み焼である。その名残が広島は今も続いており、名物になっている。

10 年程前、平和大通りあるお好み焼き屋でイカ焼きを注文した。おばあさんがイカを薄く天ぷらにした市販のものをに入れて焼いてくれた。お好み焼きの原点を見た気がした。おそらく、原爆で被害を受け、お好み焼きで生計をたててきたのだろう。お好み焼きを名物とする広島は、まだ貧しかった時代の延長上にあるとも言える。

岡山では池田光政公が倭約を奨励。その下で食べられたのがバラ寿司。学生の頃、帰省時は母がいつもバラ寿司を用意してくれていた。社会人になり、1 年間、富山で過ごした。富山のこしひかりはおいしかった。ただ、寿司だけは岡山の朝日米がおいしいと感じた。寿司屋によると、こしひかりは甘くておいしいが、朝日米と酢は非常によくマッチするという。岡山の朝日米、瀬戸内の魚、野菜で、歴史を重ねてきたのが岡山の食文化である。

12. 現在の岡山

陽明学者、山田方谷。火の車状態の松山藩の財政を約 7 年で立て直し、残りの 7 年で借金額に相当する貯蓄に成功した方谷を NHK の大河ドラマに、との運動をしている。また、令和 4 年から楯築ルネッサンスという会が、岡山大学学長が会長、各商工会議所会頭も参加して活動している。楯築遺跡は弥生時代末期の最大級の墳丘墓。吉備の国、岡山が全国の魁となり栄えた時代である。

2 千年の吉備の国を蘇らせる機運を盛り上げるべく楯築ルネッサンスの活動が始まった。次の国立博物館を岡山へ誘致し、歴史を生かした都市作り、観光産業に資する構想で、開始したばかりである。

早速、楯築遺跡の隣にある給水塔は景観を害するとの意見が出て近く撤去されることになった。

13. おわりに

人が歴史を作り、歴史が人を作る。とはいえ、お国訛りは通行手形と言われた時代は昔となり、交通手段、産業の発達、発展により、交流が盛んに行われるようになってきた。加えて、地域を構成する個々人にも個人差があり、一概に県民性を表現するのは難しい。さらに言えば、どこでも住めば都になるので、善悪は付け難い。ただ、悠久の年月がゆっくりと流れて県民性を構成してきたのも事実である。

岡山は災害の少ない恵まれた地域、また 2 千年の歴史のある土地柄。よって、大陸的（のんびり、ひとりよがり）であり、保守的傾向が強い。2 千年の歴史を背景にして、ゆっくりと少しずつ前へ進むのが県民性になっている。その象徴が最近、ユネスコが岡山市を「創造都市ネットワーク」の都市として認めたことに現れている。

（本稿は、昨年 7 月 11 日に広島市で開催された「ひろしま岡山県人会第 10 回総会」での講演内容を、演者がまとめたものであり、個人の見解です。）

「忘れられた賀陽氏・・吉備に残された賀陽氏の証と秦氏の影」 温羅伝説は賀陽氏（吉備一族）滅亡の記録か？

会員 富久 豊

はじめに

吉備の歴史を語るうえで欠かせない筈の氏族である賀陽氏のことだが、私が知る限り上道氏（和氣清麻呂）や下道氏（吉備真備）、あるいは秦氏に比べて余り語られていない様に思う。歴史上活躍した人がいないから・・・いや、臨濟宗の開祖栄西は俗姓を賀陽氏といわれている。しかし、栄西を語る時、賀陽一族との関わりが話されることはない。また、「岡山桃太郎伝説」の基になる「鬼神温羅伝説」を著した吉備津神社の神職賀陽為徳についても、あまり語られることはない。

ところが、岡山県教育委員会の発掘調査によると総社市南溝手付近に、飛鳥時代の後半（7 世紀後半～8 世紀初頭）栢寺（賀夜寺）なるものがあったと言うのである。それは何故なのか。その謎に迫ると同時に、吉備での勢力拡大を図っていった秦氏と賀陽氏の興亡についても調べてみたい。

『日本書紀』に登場する香屋氏

『日本書紀』によれば、応神天皇 22 年、吉備国に帰った妃兄媛^{えいめ}を追いかけて吉備の葉田葦守宮に行幸した折、接待を行った（兄媛の兄の）御友別に対して、その報償として兄弟子孫に吉備国を割いて与えた。まず川島県を長子稻速別に（下道臣の始祖）、次に上道県を中子仲彦に（上道臣、香屋臣の始祖）、次に三野県を弟彦に（三野臣の始祖）、また、波区芸^{はくぎ}県を御友別の弟鴨別に（笠臣の始祖）、苑県を御友別の兄浦凝別に（苑臣の始祖）、そして兄姫には織部を与えた、とある。この時初めて香屋氏が誕生したことになる。多分仲彦の子が香屋の姓を名乗ったのであろう。

しかし、私はこの記述に疑問を感じている。①吉備国はこの時誰が治めていたのか。②御友別は吉備国で何をしていたのか。そして、彼には何の褒賞も与えられていない。③なぜ吉備国をこんなに細分化する必要があったのか。④兄媛は御友別の妹ではなく、妻の可能性もある。秦氏から御友別のところへ

嫁いできた可能性が、賜った内容から示唆される。この時代、妹＝妻であり、また、妻を権力者に捧げるのも当たり前に行われていた。

次に香屋氏と思われる名が出てくるのは、応神天皇 41 年宗像大神が工女を求めたので、兄媛を奉じた。その後、三人の婦女が津国（摂津国）に至り、呉衣縫^{くれのきぬぬい}・蚊屋衣縫^{かやのきぬぬい}となったとある。

『日本書紀』にはこの二つの事例しかなく、歴史上活躍した人物はいなかったようである。それに、最初に書かれた「香屋」の文字を使った名前の人物は、全く出てこない。

『続日本紀』の時代には

では、『続日本紀』の時代はどうか。それを知る上で『日本古代人名辞典』（竹内理三氏、山田英雄氏、平野邦雄氏等が中心となって、昭和 33 年から約 20 年をかけて古代のあらゆる文献・書物から人名を拾い出し、事蹟を記したもの）を利用して賀陽氏なる名前を検索した。すると、賀陽采女を始め 11 名の人物が登場する（西暦 800 年頃まで）が、どの人物を見ても神社や寺院を建立しそうな実力者ではなさそうに思う。

吉備津神社の創建

ここで、賀陽氏を語る上で欠かすことの出来ない「吉備津神社」について、その創建の過程を考えてみることにする。社伝によると諸説あり、①吉備津彦命より五代目の加夜臣奈留美命が、吉備の中山の麓の茅葺宮という祭殿の跡に社を建立し、祖神である吉備津彦命を祀り、相殿に八柱の神を祀ったのが吉備津宮正宮の始まりであるという。②一説には、若日子建吉備津彦命の三代後の稻速別命、御友別命、鴨別命が初めて社伝を造ったとも伝えられる。③また一説では、仁徳天皇が吉備津海部直の娘黒媛を慕って難波から吉備国に行幸した時、吉備津彦命の功績を嘉して社殿を創建して命を祀ったという。

以上が神社創建の諸説である。どれもが尤もらし

く書かれているが、その後歴代に亘り賀陽氏が宮司を務めていたことを思うと、①が正しいのかもしれない。しかし、最初の社殿がどのような物であったか推測するのは難しいし、また、どの説をとってみても実年代を特定するのは難しい。

現在、日本の歴史上史実としての年代特定ができるのは、507年の継体天皇元年以降だとされていて、それを踏まえて実年代を考えてみると5世紀半ば頃、すなわち秦氏一族が大挙して日本に渡来した時期に重なるように思われる。つまり、大和王権によって滅ぼされた吉備一族（賀陽一族）が、入植してきた秦一族の助けを借りて、残っていた「茅葺宮（賀陽）」の跡に神社を建立、祭神を吉備津彦命としながらも、実は自分達の祖神である「温羅」を祀ったのだ。

茅葺＝賀陽、つまり、始めから賀陽氏の祭殿が吉備中山にあったのではないかと。そしてそこに神社を創建したかったのでは・・・すると、祭神の問題が出てくる。何故賀陽氏が主神ではないのか。そこで「温羅伝説」の内容が重要になってくる。つまり、本来なら吉備一族であり賀陽氏の祖神であった「温羅」を主神にしたかったのであるが、大和王権との戦いに敗れ、しかも「吉備」という氏名も大和王権の皇子・彦五十狭芹彦命に譲ってしまった以上、祖神を祀るためにはこの方法しかなかったのだと思う。茅葺宮の跡地に創建することによって、吉備津彦命を拝めば自動的に温羅を拝んだことになるのだ。

出雲神話との類似

実は、神話や伝説・説話の中にはこうした隠された物語や逸話が沢山存在する。その最たるものが「出雲神話」である。「温羅伝説」も「出雲神話」もどこかしら似たような香りがするのだ。更に、吉備津神社は比翼入母屋造（吉備津造）と呼ばれる独特の様式の本殿を備えている。これは二つの主祭神を祀ったものではなかろうかと、私は思っている。もし私の考えが当たっているとすれば、賀陽氏はいつ頃滅ぼされ、大和王権とどのような取引をしたのか。そして「温羅伝説」はいつ頃、誰が書いたのか。こうした諸々の出来事を考えてみると、吉備津神社も謎多き神社である。

明治の初めまで「杵築大社」と言っていた出雲大社。主祭神は勿論大国主命だが、本殿の真後ろにあ

る小祠には、なんと素戔鳴尊が祭神として祀られているのである。つまり、正面から祭殿を拝めば必然的に大国主命と素戔鳴尊を拝んだことになるのだ。実は吉備津神社も、正殿を拝めばその後ろにある岩山社（茅葺宮）を拝んだことになるらしい。

吉備津神社と栄西

吉備津神社の美しい現在の建物は、応永8年（1401）室町幕府三代将軍足利義満の命により完成したものである。その前の建物は、東大寺再建に尽力した僧重源（1121～1206）が関わっていたのではないかとされている。つまり、栄西（1141～1215）との関係から重源が関わったのだと思われる。と言うのも、前の建物は太閤殿風の建築手法が認められるからだ。ところが、神社の経歴にはこのことが書かれていない。何故か？

14世紀に書かれた『元亨釈書』^{げんこう}巻の第二「伝智一の二」には、次のように書かれている。栄西は母の胎内に十月おらず、八ヶ月にして生まれた。或る人が言うには、「昔から期に満たずして生まれる者はその父母を不幸にする」と。母はこの巷説を信じ、赤子に乳を与えずにいた。三日経つと赤子は泣くことをやめた。父はこのことを知り怒って、「子は死んだのか」と問うた。答えは「いや、まだ生きております」であった。この早産の不思議の赤ん坊は、哀しくも一度捨てられた「捨て子」であったのである。

また、『本朝高僧伝』には、このことを次のように表現している。「母、期の満たざるを忌みて、乳を与えざること三日なれども、泣かず死せず」と。しかしまた栄西は、母が赤子が欲しくて、吉備津宮第三神「楽御前」に祈願してやっと儲けた子故、神の子であると。こうした話に加え、栄西は「侏儒」であったとの話もある。

いずれにしても、賀陽一族の英雄であるべき栄西が生誕地も定かでなく、また「神部の史」だとして『備中国大吉備津宮略記』や『正殿考』を著した賀陽為徳も、このことには一切触れていない。本来なら為徳は栄西の偉業についても伝えるべきであろう。誰が書いたか分からない「神部の史」（温羅伝説）よりも、もっと賀陽氏をアピール出来たと思うのだが。

賀陽寺顛末記

現在、吉備線（桃太郎線）服部駅南の溝手地区に

遺されている「栢寺廃寺跡」は、賀陽氏の氏寺跡だと考えられているが、1978 年岡山県教育委員会の発掘調査で出土した瓦から、白鳳時代の創建とされている。白鳳時代創建の記述は遺されていないが、その後の創建の記述がいくつかある。

『元亨釈書』によると、寛平年間（889～898）備中賀陽良藤は野狐に誑かされて姿を消してしまった。一門で評議を行い、栢木の太木を伐採し十一面観音像を造り祈願。十三日にして良藤家の蔵の床下より出てきた。人々は怪しんで蔵を壊しよく見れば、数十匹の狐が逃走した。大悲菩薩の威応がなければ、良藤は妖狐の魅惑に惑わされ死んでいたであろう。そこで彼の栢木の観音を安置する寺を建て、賀陽山賀陽寺と名付けて伽藍を整備した。

星霜数百年を経て、元弘年間（1331～1334）足利左馬頭直義が福山城を攻める時、官方の^{ともがら}輩を亡ぼし賀陽寺もこの時灰燼に帰し、賀陽氏もこの頃断絶したらしい。

賀陽寺の焼亡から約 350 年後の延宝 8 年（1680）、浄土宗の僧蒙光という人が来て、退廃した伽藍石の

跡にて念仏を唱え金を集めて小庵を作り、やがて天和 2 年（1682）本堂を建て、以前の良藤の事によって賀陽山門満寺光徳院と名付けたという。この寺も昭和 59 年に撤去されて今はない。

賀陽（香屋・加羅・蚊帳）一族とは

賀陽一族の遺物と記録を検証してみたが、更に謎が深まったような気がする。延長元年（923）菩提寺沙門圓會僧正によって著された温羅伝説は、表面上大和王権が吉備国を救った武勇伝のように語られているが、実はその逆で、吉備国（賀陽国）を平定した話なのだと思われるのだ。つまり、話の中に謎が多いのである。

まず、江戸後期になって吉備津神社の神官賀陽為徳が『備中国大吉備津宮略記』を著した理由である。為徳は「神部の史」によってこれを著したとしているが、本当にそうであろうか。為徳が神職をしていた時代は、丁度庶民への文字教育も進み、お伽噺や歌舞伎と言った娯楽が庶民の間にも流布しはじめ、また、おかげ参りなどと言った神社参りも盛んに行われるようになった。そうした流行に乗る目的で、敢えてこの時期に出したのではないか。事実、温羅の「鳴釜神事」は永禄 11 年（1568）『多聞院日記』に登場しており、上田秋成の『雨月物語』にも登場するくらい有名であった。更に言えば、「釜鳴り」の祟りは何も吉備津神社だけでなく、初見は天智天皇 10 年（671）から始まっている（注 1）。だから為徳は、「或書に云、御竈殿は温羅命を葬りし処にて御気色鳴動は霊の鳴せ給ふといへり。こは国人の言い伝えるをかき付しにて、我が家の神部の史にはおさおさ見えず」と言っている。

秦氏が渡来した頃、南部朝鮮半島では乱立していた小国が次第に統合され、やがて新羅が加羅（加陽）を亡ぼして 562 年に統一を果たす。それにより、これまで吉備国（備中）で実権を握っていた賀陽一族が大和王権との戦いの末、新羅系氏族（秦氏）に実権を明け渡す。これが「温羅と県守の淵の話」（注 2）であると思う。

この時加羅国は山（鉱物資源）と水田（穀物）の両方を失った。しかし、その秦氏も蘇我氏と白猪史らの百済系氏族に実権を奪われてしまうのである。だが、一時的にせよ少なくとも賀陽氏は産鉄や農耕の技術を大和王権に伝えてくれた功労者であり、そ



栢寺廃寺跡

れを補う意味で大和王権は備中に吉備津神社を創建し、代々神官を賀陽氏に担わせた。だから平安時代以降も「朝臣」という姓^{かばね}を与え、明治になり宮家の創設も認められている。

つまり賀陽氏は一見忘れられた氏族の様にみえるが、日本国にとって大切な氏族の一つであるというのが私の結論である。

は一つ、あるいは二つ、あるいは三つ、あるいは八つの鼎^{とも}が俱に鳴ったとあり、王朝の存否に関わる不吉な前兆（王権の天智系から天武系への移行を暗示）とされた。（ただし、釜ではなく鼎）（注 2）これについては、会報 33 号「備中秦氏の謎に迫る」を参照されたい。

（注 1）『日本書紀』天智十年条に八つの鼎、あるいは

※本稿は、令和 5 年 10 月 6 日開催の歴研サロンの講演内容を演者がまとめたものです。

歴研サロンが開催されました（会場はすべてゆうあいセンター）

令和 5 年 10 月 6 日

「忘れられた賀陽氏・・吉備に残された賀陽氏の証と秦氏の影」 温羅伝説は賀陽氏（吉備一族）滅亡の記録か？

会員 富久 豊氏

奈良や吉備の古代史に詳しい富久豊氏が表記演題で講演され、25 名が熱心に聴講した。

※この講演を元にした富久氏の論考を今号に掲載しました。

令和 5 年 11 月 29 日

「近現代の美術の流れについて」

瀬戸内市立美術館館長 岸本員臣^{かずおみ}氏

瀬戸内市立美術館館長の岸本員臣氏が表記の演題で講演され、16 名が聴講した。岸本氏は岡山大学を卒業後、天満屋に入社。美術部門で企画展などを担当され、瀬戸内市立美術館館長には公募により就任された。本講演では、西洋美術の全体的な流れを概括されるとともに、明治以降の日本における近代美術の流れや最近の美術業界事情などについて解説された。その概要は以下の通りである。



西洋美術の流れ

西洋美術はクレタ美術、ミケーネ美術から始まり、ギリシャ、ローマで発展していった。ギリシャ美術は 4 期に分けられ、初めて人間の形をした彫像が登場したのはアルカイック期である。ヘレニズム期の代表作として、ルーブル美術館蔵のサモトラケのニケ（有翼の勝利の女神）がある。その後、初期キリスト教美術、ビザンチン美術を経て、中世になるとロマネスク美術、ゴシック美術（神から授かった王権の視覚化、高い塔とステンドグラスなど）が隆盛した。

15 世紀に入り、古典と科学と人文主義のルネッサンスがフィレンツェを中心に展開し、この頃から油絵が登場した。レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロなどの天才が出現。その後、ベネツィアに美術の中心が移る。北方ルネッサンスでは、デューラー、ブリューゲルなどが出た。

17 世紀になるとバロック美術が誕生し、カトリック教会の巻き返し（仏、伊、スペイン、フランドル、信者受け狙い）、プロテスタントの市民階級向け狙い（オランダ）の美術が隆盛。ルーベンス（フランドル）、

ベラスケス（スペイン）、レンブラント、フェルメール（オランダ）など。18 世紀のロココ美術は、フランスでルイ 14 世の威圧的な壮麗さへの反動で開放的なものが求められた。

19 世紀に入ると新古典主義（アングルなど）が生まれ、その後、感覚重視のロマン主義が起こり、ドラクロワ、ゴヤなどが代表。19 世紀中頃には、写実主義としてクールベ、ミレーなどが労働者や農民などをありのままに描いた。また、1830 年代からバルビゾン村に住むバルビゾン派が活躍。1860 年代から、マネ、モネ、ドガ、ルノアールなどの印象派が登場。その後、新印象派、後期印象派が活躍。同じ頃の象徴主義では、ルドン、ムンク、シーレなどが出た。

20 世紀になると、ドラン、マティスなどのフォービズム（野獣派）が大胆な色使いで色彩固有の性格や意味を強調した。キュービズムは、対象をキューブ（立方体）の集まりのように描くもので、セザンヌの理論を実践したものと言われ、ピカソが代表。ピカソは人により好き嫌いが激しいと思うが、20 世紀最大の天才であろう。8 歳の時、すでに完成度の高い油彩の作品を描いており、後に青の時代、キュービズム、シュールレアリズムなどさまざまな画風を展開した。

その後、未来派、抽象芸術などが出た。エコール・ド・パリ（パリ派）は、1920 年代から第 2 次大戦前までパリを中心に活躍。モディリアーニ、シャガール、藤田嗣治など。シュールレアリスム（ダリ、ミロなど）は合理的・科学的なものに縛られない世界、無意識の世界を描いた。1960 年代以降、アートは大衆と一緒にあるとするポップアートが隆盛し、消費社会の象徴のイメージを描くアンディー・ウォーホルなどが有名。

日本の近現代美術

日本に目を向けると、江戸中期に秋田藩主佐竹曙山、藩士小田野直武らが西洋画法を学び、秋田蘭画と言われた。江戸後期には、司馬江漢が独自の銅版画を開拓した。

明治に入り、高橋由一^{ゆいち}を嚆矢として洋画が台頭した。明治 18 年（1885）に岡倉天心やフェノロサにより東京美術学校が開校。当初は日本画のみで洋画はなかった。1 期生に横山大観がいる。その後、黒田清輝らの活躍により洋画が隆盛になった。

明治 31 年（1898）に、東京美術学校の校長を辞した岡倉天心が日本美術院（展覧会は院展）を創設。日本画を中心に、横山大観、下村観山、菱田春草などを輩出した。明治 40 年（1907）には今の日展につながる文展が創設された。

大正に入り、休止していた院展が再興、また、二科会が組織され、洋画界の代表的団体となった。日本画では、大正 5 年（1916）に、文展の審査に対する不満から、土田麦僊、村上華岳、小野竹喬ら京都の日本画家が国画創作協会を結成。

昭和になると、二科会系の洋画家による独立美術協会が発会、戦後の昭和 21 年（1946）に日展が発足、昭和 24 年には東京芸術大学が誕生した。

明治～大正期の代表的な画家としては、青木繁、佐伯祐三、昭和まで活躍した熊谷守一、梅原龍三郎、安井曾太郎、小磯良平など。岡山人脈の画家としては、児島虎次郎、岸田劉生（父、岸田吟香が美作出身）、原田直次郎（岡山藩士の子）、鹿子木孟郎^{かのこぎたけしろう}、国吉康雄などがある（日本画では小野竹喬、池田遙村など）。

直近 50 年の美術業界について述べると、戦後床の間がある家が減ったことで、日本画はそれまでの掛軸から横長の絵を描く必要が生じた。名前に山が付くので日展三山と呼ばれた東山魁夷、杉山寧、高山辰雄の 3 人や、加山又造、平山郁夫などが現代日本画の流れを作った。現在の画家では草間やよい、千住博、村上隆など。ただし、美術作品の値段・価値はその画家の生前には定まらない。亡くなった後に評価がどうなるかということである。

講演の最初に、講師からこの 1 年間に美術館へ行ったかどうかと問いかけがあったが、あまり手が上がらなかったのは残念だった。今回、岸本講師から 3 千年に及ぶ西洋美術の発展を通史的な形で拝聴し、断片的

な知識しかなかった西洋美術の全体的な流れを知ることができた。歴研サロンで美術史関係のテーマが登場したのは初めてであるが、豊富な経験と該博な知識を基に、広範な内容を情熱を持って解説される岸本講師の姿に圧倒された 2 時間であった。(井上知明)

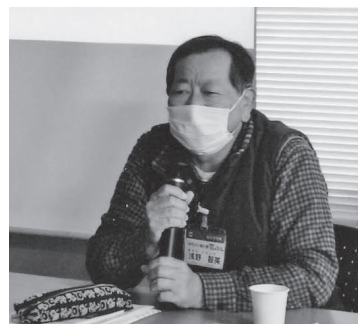
令和 5 年 12 月 17 日

「総社の郷土史秘話あれこれ」

総社市まちかど郷土館館長 浅野智英 氏

参加者 17 名。総社市と言えば、吉備路の鬼ノ城、国分寺、作山・こうもり塚古墳等が吉備路観光の目玉であるが、今回は浅野智英講師が、郷土史秘話として興味深い話を披露された。

第 1 は総社に実際にあるミイラの三話で、①総社市上林の金龍寺増弁堂の中にある、民を救うためにミイラになった増弁和尚、②大正時代に臼井橋の沼から出土した足利尊氏の軍勢の鎧兜の 2 体のミイラ、③山手村の金比羅山のお堂から発見された 2 匹の猿のミイラ、の話であった。いずれも、過去に総社青年会議所や山手村発行の書物に掲載されたもの。



第 2 は、総社が以前から製菓とともに銘菓が有名であったこと、特に、幻の総社銘菓「養老糖」は砂糖と自然薯による 500 年前からの伝統的銘菓で、総社栄町の竹榮堂が製造本舗。元禄時代に高梁の松山城を訪れた浅野内匠頭の名代大石良雄が総社に宿泊した際に食べた記録があり、昭和の初めまで製造されていた幻の総社銘菓とも。

第 3 は、総社の吉備線の北にある蒔田藩の浅尾陣屋の話。京都見回り組でもあった藩主蒔田広孝の禄高は 1 万石に満たない旗本の禄高であったが、家臣たちが主君を何とか大名の列に加えんと検地を行い、当時 1 間は 6 尺に端数があるのに端数をカットし 6 尺 1 間に改めた。その結果、面積の増加と年貢米の増収積算により、大名に昇格させることができたとか。しかし、池田孫衛門という反骨の百姓が浅尾藩蒔田家の石高直しの増税に猛反対し、打ち首の刑に処せられたという。当時の村人は、池田孫衛門の徳をたたえ、手厚く葬った。その後浅尾陣屋内で夜な夜な奇怪なことが起こり、領主は半狂乱となり、遂に孫衛門処刑を深く詫び、以後塩ヶ稲荷大明神として蒔田家の守護神とし、現在の地に祀られているという。昭和 53 年 10 月 31 日総社青年会議所発行の『吉備路の伝説』掲載の秘話である。

浅野講師の講演は、このほかにも総社宮、湛井 12 カ郷用水など多岐にわたったが、郷土の歴史・秘話をめぐり、観光政策と郷土史探訪の背理について活発な質疑が交わされた。郷土史の奥深さと面白さを存分に感じた有意義なひとときであった。(板野忠司)

ニュース

第 5 回「定説への叛乱 岡山・東京歴史シンポジウム」開催

令和 5 年 10 月 28 日、29 日に生涯学習センター視聴覚室において「古代吉備国は定説の投馬国なのか定説外の邪馬台国なのか」との主題で開催されました。

「楯築ルネッサンスフォーラム 2023 古代三都物語Ⅱ」が開催されました(岡山歴研協賛)

令和 5 年 11 月 25 日、26 日に倉敷市のアイビースクエアで、楯築ルネッサンス協議会(代表:楨野博史前岡山大学学長)主催の楯築遺跡の魅力や活用方法などについて語るフォーラムが開催されました。(26 日は歴史ウォーク)

宿場町 矢掛の歴史ウォーキング

会員 伊達教夫

令和5年10月14日、井原鉄道矢掛駅観光駐車場に集合。19名が参加して、宿場町矢掛の歴史ウォーキングが行われた。矢掛駅前で、当日のコース概要説明と案内をしてくださる矢掛町教育委員会の西野望主幹の挨拶があり、スタートした。

矢掛駅からやかげ郷土美術館に向けて歩き、到着。美術館では館長さんや職員の方が出迎えて下さった。美術館は平成2年11月に開館し、町木の赤松を使い太い梁を生かした伝統工法による建物で、落ち着きのある温かさを感じさせ、心和む空間になっている。常設展示として田中塊堂（書家）と佐藤一章（画家）をはじめ、郷土出身作家の作品が飾られている。展示ロビーには宿場町の屋並のジオラマがあった。屋根は全部瓦葺きになっていたが、茅葺き屋根の家は無かったのだろうか？と疑問を持った。また、水見櫓に登ってみると矢掛の町並が一望できた。階段にはこれまでの水害の被害状況が写真展示されていて、矢掛は水害被害と戦ってきた町でもあることを知った。

美術館を出て、悪水通りの溝の側に地神と金比羅常夜灯がある場所が、周りの土地より1メートル以上低くなっていた。水害を防ぐために、盛り土をして嵩上げた歴史を物語っている。

次に、旧矢掛本陣石井家住宅を見学。石井家は江戸時代初め頃から矢掛宿の本陣職を務めていたといい、宿泊した大名らが使用した本陣の部屋に、一段高くしつらえた「上段の間」がある。上段の間には8畳に床と違い棚・付け書院があり、武家屋敷の雰囲気の中に数寄屋風の意匠を取り入れた造りになっている。畳廊下を経て、南側の嵐山を借景として取り入れた中庭、湯殿、化粧の間、雪隠などがあり、当時の風情を色濃く残し伝えている。ボランティアガイドの方の説明も丁寧であった。裏に回り、元禄年間頃から酒造業を営んでいた関連の建物を見学。米蔵、酒蔵の中は資料展示室となっており、多くの資料が保存されていた。

旧矢掛脇本陣の高草家は、代々金融業を営んで財を成し庭瀬藩の掛屋（会計方）を務めた。後に矢掛村の庄屋を務め、小田郡の大庄屋となり大高草と呼ばれた旧家であるとの説明を受けた。脇本陣は街道の北側に位置し、間口17間、奥行き24間に及ぶ広大な敷地に街道に沿って表屋造風の主屋が建ち、東側に蔵屋敷が妻を見せて建っている。中庭の奥には大蔵、中蔵、米蔵などが建ち並び、米蔵の前に小さな社があり、側に大きな榎が聳え立っていた。

その後、町家交流館 やかげ茶屋にて昼食を済ませて駐車場まで戻り、車で大通寺の駐車場まで移動した。到着すると、住職が山門前の道路の掃除をしながら出迎えてくださった。玄関から書院に上がり裏庭を眺めると、そこには県指定名勝となっている池泉鑑賞式庭園がある。開山堂の北あたりに釈迦三尊石、須弥山石組を配し、築山下部に滝を中心に集団石組を構成、力強い景観となっている。この庭は、四季の変化を感じにまた訪れてみたい場所である。寺内の見学、説明を受け、お土産に住職が執筆された『備中地方の禅文化』の書籍をいただき、仁王門前の階段で記念撮影を行い帰途に就いた。

矢掛の町は何度か訪れているが、まだまだ訪ねてみたいところが多く、有意義な時間を過ごすことができた。企画担当の方、お世話をしてくださった皆様、有難うございました。



大通寺山門前にて

吉備国の語り部の会（出前講座）・令和 5 年度活動実績

岡山歴研では丸谷運営委員会を中心に、公民館等で会員の研究成果を県民に伝える語り部活動（出前講座）を実施しています。以下に令和 5 年度の活動実績を報告します。

講演者	会 場	開催日	演 題
丸谷憲二	瀬戸内市中央公民館	4 月 16 日	安仁神社の太陽信仰
高橋義雄	玉島西公民館	5 月 10 日	犬養毅首相と政党政治
杉嘉夫	岡山市立旭公民館	5 月 18 日	池田綱政と岡山後楽園
高橋義雄	庄東憩いの家	5 月 19 日	宇喜多秀家と豪姫の 280 年の愛
板野忠司	岡山市立御南西公民館	5 月 19 日	犬養木堂が挑んだ近代日本の光と闇
平茂寛	岡山市立旭東公民館	5 月 26 日	江戸時代の湯屋について
高橋義雄	玉島西公民館	6 月 14 日	小野光右衛門と和算
板野忠司	庄東憩いの家	6 月 16 日	経済学三大思想史と新しい資本主義の行方
丸谷憲二	西大寺緑の図書室	6 月 25 日	備前西大寺に巨勢金岡の姿を追う 郷土史研究のすすめ
丸谷憲二	岡山市立北公民館	6 月 30 日	弥生時代の赤泥（ソブ）製鉄の可能性 岡山大学蔵・七つぐろ 1 号墳出土鉄斧と西アフリカ
高橋義雄	玉島西公民館	7 月 12 日	祐清とたまがき書状
山田良三	津高グリーンハイツ	7 月 22 日	こんなにすごい！岡山の偉人
高橋義雄	玉島西公民館	9 月 13 日	小堀遠州と作庭
高橋義雄	庄東憩いの家	9 月 15 日	帝国書院の創立者 守屋荒美雄
板野忠司	きらめきプラザ	9 月 17 日	犬養木堂が挑んだ近代日本の光と闇
岡将男	岡山国際交流センター	10 月 5 日	吉備邪馬台国東遷説（全国民営肢体不自由児施設連合会中堅職員研修会）
高橋義雄	玉島西公民館	10 月 11 日	太田辰五郎と千屋牛
平茂寛	岡山市立御南西公民館	10 月 13 日	江戸の風俗
山田良三	浅口市立鴨方図書館	10 月 29 日	至誠を貫いた時代の先駆者 山田方谷
高橋義雄	玉島西公民館	11 月 8 日	津田永忠と後楽園
井上知明	岡山市立御南西公民館	11 月 24 日	洛中洛外図屏風から見えてくる歴史
板野忠司	きらめきプラザ	11 月 26 日	犬養木堂が挑んだ近代日本の光と闇（中国地区ろうあ連盟中国ブロック大会）
板野忠司	岡山市立北公民館	11 月 30 日	古代吉備の国 ミステリーゾーン秦の郷
丸谷憲二	岡山市立東山公民館	12 月 12 日	吉備の王墓・造山古墳 大吉備諸進命、千足古墳埋葬者三井根子命説
丸谷憲二	岡山市立御南西公民館	12 月 15 日	吉備津彦伝承と古代製鉄
丸谷憲二	岡山市立西大寺公民館	12 月 16 日	西大寺八幡山城と宇喜多氏 宇喜多直家出世城 中間報告
山田良三	岡山市立興除公民館	1 月 11 日	岡山の歴史と人物
伊達教夫	岡山市立西大寺公民館	1 月 20 日	西大寺金山・八幡山城とは
岡将男	岡山市立西大寺公民館	2 月 24 日	宇喜多の豊臣政権における位置 豊臣政権と瀬戸内海航路
伊達教夫	岡山市立西大寺公民館	3 月 16 日	頼山陽 岡山・西大寺の足跡
山田良三	玉島市民交流センター	3 月 26 日	至誠を貫いた時代の先駆者 山田方谷

※語り部の会についてのお問い合わせは丸谷憲二運営委員まで。

電話：090-6837-1615 メールアドレス：yanagirousi@gmail.com

岡山歴史研究会 令和 6 年度総会の御案内

下記の通り令和 6 年度総会を開催しますので、万障お繰り合わせの上、ぜひ御出席ください。

日 時：令和 6 年 4 月 29 日（月、昭和の日）午後 1 時 30 分～（1 時開場）

場 所：岡山県立図書館 2 階多目的ホール（駐車場あり）

総 会：午後 1 時 30 分～2 時頃

記念講演：2 時過ぎ～4 時

演題：「岸田吟香の生涯と功績」

演者：武庫川女子大学教授 山口 豊氏

※岸田吟香は、天保 4 年（1833）現在の岡山県美咲町生まれ。「大魚は小池に遊ばず」の志を抱いて江戸に遊学し、明治時代に東京で和英辞書の発行、新聞の創刊、目薬の販売、日本語の平易化、日清貿易などを行った時代の先駆者。全国薬業組合や日本薬学会でも活躍。画家の岸田劉生は 4 男。

春の探訪会「児島湾の高島」の御案内

児島湾に浮かぶ高島は、神武天皇が東征の途中に立ち寄ったとされる島として知られています。ちょうどその時に黄色の蕨が生えていて、その地を黄蕨すなわち吉備の地として、以来岡山地方が吉備の国と呼ばれるようになったとされます。吉備津神社の正面の石碑にも「黄蕨（ぜんまい）・・・」の字が書かれています。島内には高島神社があります。

当日は小型の船で行き、島内を探訪します。

日 時：5 月 12 日（日）午前 9 時～ 雨天の場合は 5 月 19 日（日）

集合場所：岡山ふれあいセンター 駐車場（無料）

（岡山市南区桑野 715-2）

参加費：1,000 円（渡船料）

但し、昼食、飲料は各自持参してください。

申し込み：4 月末までに、楠 敏明まで御連絡ください。

携帯電話：090-7894-5519

編集後記

今号の楠会長による岡山と広島の県民性の違いについての論考は、歴史や地誌の視点から食文化にまで及ぶ考察であり、興味深いものであった。「広島にはバイタリティーが、岡山には文化の香りが」との指摘は、概ね当たっているのではないかと思います。

文化人類学者の祖父江孝男氏が 1971 年に、『県民性文化人類学的考察』（中公新書）を上梓している。この本はベストセラーになり、県民性という言葉が一般に定着したとされる。その中で、岡山の県民性は利口で処世上手、合理主義的であると書かれている。戦前から女子教育も盛んで、学校教育の普及度が極めて高く、それと関連して「きわめて理屈っぽい」と指摘されている。ずいぶん前のことなので現状との乖離があるとは思いますが、納得できるように思われる。一方で、歴代の岡山城主の印象がマイナスに働いているとも書かれている。宇喜多直家はあらゆる謀略を用いて勢力を拡張した人物だし、そのあとの小早川秀秋は関ヶ原で東軍に寝返った人物であったから評判が悪く、こうした歴史が尾を引いて、岡山県人のイメージに影響しているという。

広島については、ややイメージがぼけてくるとのこと。県出身者に聞くと、「淡白、明るい」とか「厚かましい」という答えが返ってくるとある。同じ広島でも備後と安芸では性格が異なり、備後は岡山に近く経

済観念が発達しており、安芸は浄土真宗の影響であきらかにめがよく、あっさりしているという。

祖父江氏の著書から半世紀が経ち、社会の情報化・均質化が進む中で、県民性というものは今後は徐々に薄れていくのかもしれない。しかし、気候風土などは大きく変わることはないのも、県民性に及ぼす影響というものはある程度残っていくのであろう。優劣という視点からではなく、いい意味でそれぞれの地域の特性を生かしていくことが大切なのではないかと思う。

その他には、富久豊氏の賀陽氏に関する論考、矢掛探訪や歴研サロンの報告、出前講座の実績報告などを掲載した。

（井上知明）

発 行 岡山歴史研究会

会 長 楠 敏明

編集長 井上知明

事務局 〒700-0973 岡山市北区下中野350-121

コーポ東浦北棟202 山田良三方

電 話 090-1033-3327（携帯電話）

F A X 086-806-2525

メール rekiken.okayama@gmail.com

ホームページ <http://b.okareki.net/>